Osaka University Knowledge Archive

Title	女性のホモソーシャルな親密性をめぐる文化社会学的考察 : 「宝塚」と「やおい」のメディア論的分析を通して
Author(s)	東, 園子
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/57709
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【20】

氏　　名	東（あずま）　園子（その こ）
博士の専攻分野の名称	博　士（人間科学）
学 位 記 番 号	第　２３５１０　号
学位授与年月日	平成22年３月23日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 人間科学研究科人間科学専攻
学 位 論 文 名	**女性のホモソーシャルな親密性をめぐる文化社会学的考察－「宝塚」と「やおい」のメディア論的分析を通して**
論 文 審 査 委 員	（主査） 教　授　牟田　和恵 （副査） 教　授　木前　利秋　　准教授　辻　　大介

論 文 内 容 の 要 旨

本稿は、女性だけで男性も女性も演じる舞台である「宝塚」と、女性に向けられた男同士の恋愛物語である「やおい」という、同性同士で恋愛を表現する現代日本の女性向けポピュラーカルチャーの分析を通して、女性とホモソーシャルな親密性の関わりについて考えるものである。ホモソーシャリティとは、性的であるかどうかという基準に沿ってホモセクシュアリティと区分された、同性同士の非性的な親密性である。現代社会における親密性をめぐる観念体系の中では性的な関係性が中心化されており、ホモソーシャルな親密性、とりわけ女性のホモソーシャルな親密性は周縁化されている。また、女性に対してはホモソーシャリティを認識するためのコードが提供されていない。その中で、女性たちが、「宝塚」と「やおい」を通してホモソーシャルな親密性をどのようなやり方で捉えようとしているのかを分析することで、社会の中で女性のホモソーシャリティが不可視化されている背景を逆照射することを試みる。

現代社会において非性的な親密性が周縁化されている背景には、近代化によって、非性的な男同士の関係中心のインパーソナルな公的領域と、性的な男女間の関係中心のパーソナルな私的領域という形で社会秩序が編成されたことによる。その中で、セクシュアリティが親密性の基盤と見なされるようになったために、男性はインパーソナル化・非性愛化された公的領域での活動を通して親密性への欲求を高めることになる。その帰結として、女性は男性の異性愛関係の相手となることが求められる。こうして、公的領域を支配する男同士の関係を補完するものとして親密な異性愛関係が必要とされたことから、愛という観念が影響力を持つようになり、親密性を規定するコードとして愛のコードが有力になった。特に、女性に対しては異性愛を促すために愛のコードが教え込まれる一方で、友愛のコードを学習する機会はあまり与えられない。そのため、女性はホモソーシャルなものから疎外され、友愛のコードによって認識されるホモソーシャリティは、女性にとって認識

しづらいものとなる。

だが、「宝塚」と「やおい」の愛好者の間では、このホモソーシャリティを捕捉するための独自の方法が発達している。「宝塚」の場合、それは「宝塚」がメディアとして持つ構造によって可能になっている。「宝塚」の舞台に登場するタカラジェンヌは、ファンにとって、舞台で上演されている作品の登場人物である役名の存在、作品から自律して作品を横断する形で舞台上で表現される芸名の存在、ファンに公開されたオフの姿である愛称の存在、ファンに対して非公開のオフの姿である本名の存在の四層を持っている。ファンは、異性愛と男同士の絆が中心になった舞台上の役名の存在の物語から、芸名の存在を媒介にして、異性愛が排除された舞台裏でのタカラジェンヌ同士の友情物語という愛称の存在の物語を読み取る。そのように舞台を見ることで、ファンは「宝塚」の舞台から、オフの領域のタカラジェンヌ同士の絆という女性のホモソーシャルな親密性をリアリティを持って感じ取ることができる。

一方、「やおい」の場合、愛好者たちの関心は既存のマンガやアニメの男性キャラクター同士の関係性に向けられている。「やおい」の愛好者は、男同士のホモソーシャルな絆が描かれた原作から男性キャラクター同士の人間関係を抽出し、その人間関係を恋愛関係に見立てる解釈ゲームを行っている。「やおい」は、男同士の親密性を表現するコードを、原作の友愛のコードから愛のコードに替えることによって、女性に与えられた異性愛に関する規範を最上位の関係のコードとして男同士の関係に当てはめて男同士のホモソーシャルな親密性を強化しつつ、男同士の関係が異性愛によって脅かされる可能性を無化する。

また、「やおい」愛好者のコミュニティにおいて、「やおい」は、男性キャラクターの人間関係に対する自分の妄想＝解釈を他の仲間と交換しあうための媒体として、愛好者の間に共同性を育む機能を持っている。その中で、男性キャラクター同士の人間関係の解釈に用いられる愛のコードは、女性たちの間で共有されている親密性のコードとして、自分の解釈を他者から理解されやすい形で効率的に示すためのコミュニケーションツールとなっている。また、男性向けの物語を愛のコードを使って解釈することは男性に好まれないため、「やおい」コミュニティから男性を遠ざける効果も持っている。「やおい」愛好者たちは、キャラクターという記号化された男性を交換しつつ、コミュニティ内部から異性愛を排除する形で女同士のホモソーシャルな関係を育み、強制的異性愛の圧力にさらされない空間を作り出している。

以上のような「宝塚」と「やおい」の愛好者の分析から、現代社会における親密性に関する二つの特徴を導き出すことができる。一点目は、現代社会における友愛のコードが男性化されていることである。「宝塚」や「やおい」の愛好者たちは物語で描かれる男同士のホモソーシャルな絆に憧れを抱いている一方で、女同士のホモソーシャルな絆の存在を認識していない。この背景には、友愛のコードが公的領域の男同士の絆に承認を与える機能を持つことがある。公的領域では公平性という価値を担保するためインパーソナルな場として構成されているが、その中には男同士のパーソナルな関係が隠されており、それを通して男性に特権が与られている。友愛のコードは公的領域の男性支配を可能にする男同士のパーソナルな関係を正当化するものとして発展してきたために、女同士のホモソーシャルな親密性を認識することができなくなっていると考えられる。

二点目は、女同士のホモソーシャルな関係は異性愛によって周縁化されることである。「宝塚」と「やおい」では、ホモソーシャルな親密性を表象したり形成するうえで、異性愛という要素が制御される。これは、私的領域においては愛のコードが優勢であるために、異性愛を排除しなければ劣位にある親密性と見なされるためである。女性は私的領域に属するものとされ、女同士の絆も私的領域に位置づけられるので、女同士のホモソーシャルな絆は異性愛と競合関係に陥り、異性愛関係に対して劣位に置かれることになる。

このように、「宝塚」と「やおい」は、強制的異性愛に支えられる男性支配社会の中で、女性から見えなくさせられているホモソーシャルな親密性を見ることができるものとして、女性たちに愛好されているのだと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本論文は、現代の注目すべきポピュラーカルチャーの一種である、「宝塚」と「やおい」という、同性同士の恋愛が表現される物語形式に注目し、それらをの愛好者の女性たちが、そこにホモソーシャルな親密性を読み取り表現する方法を比較分析することを通じて、社会の中で女性のホモソーシャリティがどのように規定されているのか考察を行っている。ホモソーシャリティとは、同性間の友情、ライバル同士の絆、師弟愛、主従愛、連帯感などの社会的な絆であり、一般的には「友情」や「友愛」といった概念で把握される関係性のことであるが、近代以降の男性支配社会の社会認識の鍵概念として、フェミニズム批評家E.K.セジウィックがとくに論じたところから、文学批評・フェミニズム理論・ジェンダー史の諸領域で活発に議論されてきた。本論文は、それらの議論を受け継ぎながら、一方で不可視化されたままである「女性のホモソーシャリティ」に着目しようとする、意欲的研究である。

本論文は、まず第1章でホモソーシャルな親密性に関する理論的考察を行い、その後、具体的な事象の分析に入って、第2章・第3章では「宝塚」を、第4章・第5章・第6章で「やおい」を取り上げている。宝塚を扱った章は、

第2章では、「宝塚」ファンの親密性のコードの用い方の前提となる、「宝塚」のメディア的な構造を分析する。「宝塚」を一つのメディアとして捉え、「宝塚」の舞台や劇団制度の様々な特徴を元に、「宝塚」がどのような構造を持つのか、そして、その構造がファンのどのような舞台の見方を引き起こすのかを分析、考察している。

第4-6章では、「やおい」愛好者の親密性のコードの使い方を生み出す基本的な構造を理解するために、二次創作という手法を分析し、その中で恋愛という要素をどのように位置づけることができるのかを考察する。
さらに、「やおい」において男同士の絆を恋愛化することで、すなわち男同士の関係に愛のコードを適用することで、何が表現可能になるのかを考察し、愛好家女性たちの「やおい」コミュニティが、女性たちにとってどのような意味を持ちうるのかを論じている。

そして、結論として、「宝塚」の分析から得られた知見と「やおい」の分析から得られた知見を総合して考察を行い、現代社会における親密性のコードの編成を導き出し、何が女性のホモソーシャルな親密性の社会的な位置づけを規定しているのかについて考察した上で、それを通して、「宝塚」と「やおい」が現代社会を生きる女性にとって持つ意味を示している。

このように本論文は、ポピュラーカルチャーのなかでもアカデミズムでは周縁的と考えられている表現形式に果敢に研究の方向性を見定め、重要な社会学的知見に基づきながら、フェミニズム研究・メディア研究・文化研究を学際的につなぐ研究となっている。

以上のことから、本論文は、博士（人間科学）の学位授与にふさわしいものと判定する。